

中 日 本 興 業

設立 70 周年

名古屋駅前の映画館「ミッドランドスクエアシネマ」2館、計14スクリーンを有するなど中部地方屈指の興行会社中日本興業（名古屋市中村区）は今年、設立70周年。当地区の老舗エンタテインメント会社だけに波乱の軌跡を経てきた。最近もコロナ禍のロックダウンで痛打を受けたが、見事に復調。「さらに、名駅前を映画・音楽・文化の街に」と意気込む服部徹社長に話を伺った。

（聞き手は塚本隆編集長）

— 会社設立70周年、おめでとうございます。率直な感想を。

服部 私が入社したのが1989年で、会社の35周年。その後35年経過して今年70周年。会社の歴史の半分を経験し、折り返しのようにになりますが、実は幼少期を含めると私の身体の大部分は会社の歴史。よく難しい時代を潜り抜け、続いてきたなあ、先輩方や周囲の人々、そして環境にも感謝しています。

昔は年中無休。伊勢湾台風（1959年9月）も休まず、帰れなくなったお客さんの避難場所となり劇場で泊っていった。コロナ禍では41日間休業。それまでは大喪の礼（1989年2月24日）で1日休んだだけ。とにかく先も見えないし、収入ゼロで従業員の給料などコストはかかる。結局、内部留保をどんどん吐き出しました。内部留保があったのでしのげましたが。

— 設立の経緯は？

服部 旧豊田ビル（現ミッドランドスクエア）を東和不動産（現トヨタ不動産）が建設する時、同社社長で豊田通商社長でもあった岡本藤次郎氏が米国の事情にも詳しくて、複

服部 徹社長に聞く



合ビルを提案。エンタテインメントを兼ね添えたビルの事です。そこで力道山の興行で有名な後の東京吉本社長、林弘高氏と祖父も発起人に就き、1954年に会社を設立し、翌年、映画館3館が誕生しました。その後6館体制になりましたが、名古屋駅前は他館も含め計10館以上がケンを競いました。

— 社は「調和ある進化」。感動の創造も謳っています。

服部 映画産業は昭和33（1958）年の総観客数約12億人をピークに平成5（1993）年約1億2000万人のボトムで10分の1に激減し、その後、シネマコンプレックス時代、デジタル化などへと変転していきませんが、我々は映画人口のシェア争いではなくて、100を110、120に増やす考え方です。例えばシネコンを映画以外のものに使う、デジタルは双方向なので、ライブビューイングなどで活用するとか。他がやっているから、でなくて何が感動させるか、を探る。考えられる可能性はいっぱいあると思います。

先日もプロ野球のドラフトの際、ドラゴンズOBを呼んで解説してもらいました。ファンは間接的でなく直接的な感動がいいんで